

国立京都国際会館展示施設

Kyoto International Conference Center Exhibition Hall



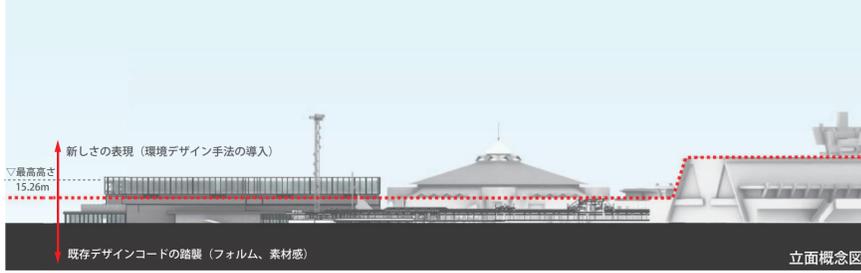
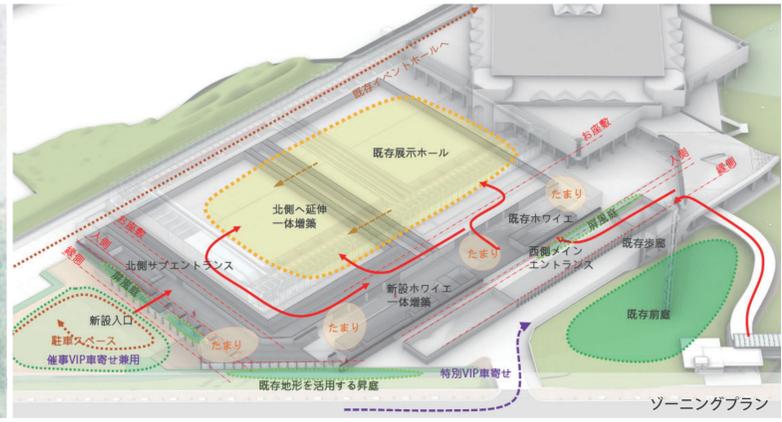
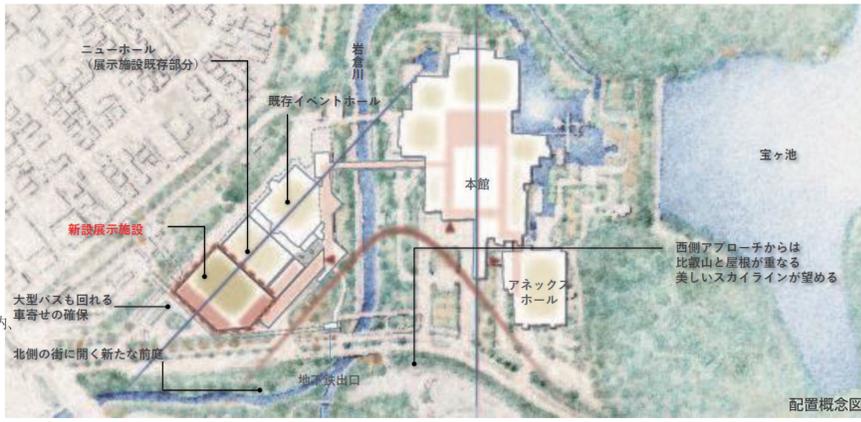
50年間大切に守られてきた国立京都国際会館の設計思想を、これからの50年につなぐ

計画概要

国立京都国際会館は昭和41年に整備された我国最初の国立の国際会議場です。築後50年近くが経過し、近年の国際会議の大規模化を背景に十分な機能を果たせない状況となっております。既存施設群の歴史や周囲の恵まれた自然環境との調和と先進性の創出をコンセプトにかかげ、現代の技術で既存デザインを踏襲したニューホール1期と同様に、質感の調和を図りながら、現代的で永続的に価値を持ち続けるデザインを北側へと連続させます。

建築概要

名称 / 国立京都国際会館展示施設
 計画地 / 京都市左京区岩倉大鷲町4-2-2番地
 地区地域 / 付置地区第2種地域、歴史的風土保存区域、眺望空間保全区域(34)、遠景デザイン保全区域(16)・3km以内、遠景デザイン保全区域(34)・3km以内、遠景デザイン保全区域(40)・3km以内、遠景デザイン保全区域(41)・3km以内、遠景デザイン保全区域(45)、下水道処理区域
 主要用途 / 展示場
 敷地面積 / 152,771.78㎡
 建築面積 / 3,983.24㎡
 延床面積 / 4,871.18㎡ (容積対象床面積 / 55,479.90㎡)
 建蔽率 / 20.61%
 容積率 / 36.32%
 構造形式 / 鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
 階数 / 地上2階
 高さ / 建物高さ: 15.260m
 軒高: 13.860m
 発注者 / 国土交通省近畿地方整備局
 設計 / 株式会社日建設計



日本建築の「場」の構成

国立京都国際会館では国際的な催事が多く催されます。異文化が触れ合う場として、本館同様ニューホールにおいても規格化された展示施設ではなく、日本の京都にある国立京都国際会館にふさわしい空間が必要と考えます。ニューホール1期で整備した歩廊(緑廊)、ホワイエ(入側)、展示ホール(お座敷)という、日本建築の「場」の構成を意識したストーリーを北側にも展開します。本館のリズム感のある空間展開を意識し整備したニューホール1期同様、本計画においても平面構成と合わせて天井高さにメリハリをつけることで、利用者の視線を少し上げ豊かな空間体験を演出します。



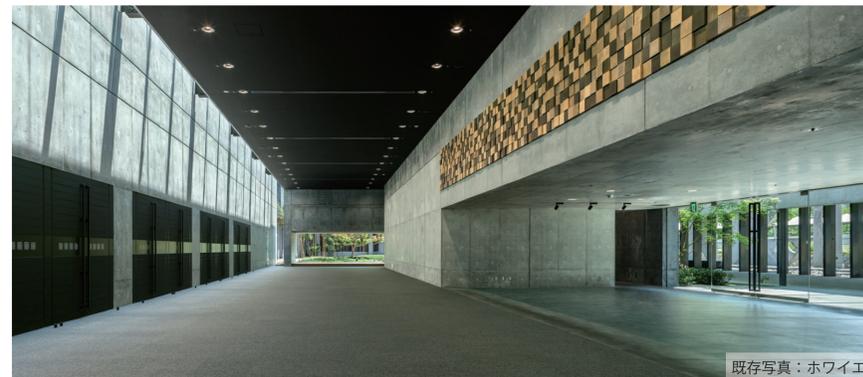
新設部：北側からの見え方



新設部：北側からの見え方



既存写真：連絡歩廊



既存写真：ホワイエ



既存写真：展示ホール